



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸の言



行事予定

月	日	曜	行事等	校時	時間 変更等	学年
4	1	火				
4	2	水				
4	3	木				
4	4	金				
4	5	土				
4	6	日	入学式(本校まで)			
4	7	月	新任教務主任 中務主任 入学式設置 委員会 委員長 副委員長			
4	8	火	新入生入学式 入学式贈答 委員長 副委員長 委員会			
4	9	水	対面式 1年全休オリ 2・3年実力考査(1日目) 写真撮影(1・2年)			2・3 年考査
4	10	木	1年教科オリ 2・3年実力考査(2日目) 部活動総合写真撮影(3年) 学校安全の日			2・3 年考査
4	11	金	1年教科オリ・全休オリ・新入生テスト(数)・学校案内 通学引継ぎ			7限 カット
4	12	土				
4	13	日				
4	14	月	定期教育相談(～4/20) ①全校総会② 演劇レントゲン(1年・職員) 専修科(～4/22)		5分 延	
4	15	火	教育相談③ 心臓検診(午前:1年・職員)		45分	
4	16	水	中務主任退任(6/7限) 教育相談④ 検定一次		45分	
4	17	木	教育相談⑤ 通学引継ぎ		45分	
4	18	金	中務主任			
4	19	土				
4	20	日				
4	21	月	学年総会⑥ 教育相談⑥ いじめ問題を考える週間(～4/27) いじめ問題を考える特別授業・SBSチェックシート 創立記念式典・記念講演会		5分 延	
4	22	火	新体力テスト・身体測定(5～7限) 教育相談⑦		45分	
4	23	水	新体力テスト・身体測定(3,4限・5～7限) 教育相談⑧		45分	
4	24	木	中務主任 教育相談⑨ 検定一次		午後10 分延	
4	25	金	教育相談⑩ 通学引継ぎ		45分	
4	26	土				
4	27	日				
4	28	月	一日講座			
4	29	火	運動の日			
4	30	水	教育相談⑪ 内科・歯科検診(午後)		45分	

↑発行時の予定です。変更にご注意ください。

卒業

事務長 南 芳浩

今年も晴れやかな表情で卒業生たちが巣立っていききました。生徒の皆さんの卒業に立ち会えるのはうれしくもあり、また一方で事務長という生徒と直接関わる機会が少なかつた身でも、見送るのはやはりさみしい思いもあります。

そういう私も、今から42年前に本校を卒業しました。

生徒館と本館の間にある新館がまさに「新館」だった時代の卒業生です。

当時は3月まで待たず、2月に「卒業予餞式」というものを行っていました。私立大学の入試がある時期だったので、欠席者もたくさんいました。自分も当日の朝に当時の西鹿児島駅まで帰り着きましたが、学校に着いたときには既に式が始まっていて何だか入りづらく、式が終わるのを外で待っていたように記憶しています。

自分の卒業式には出席できませんでしたが、数十年のときを経て職員として同席することができました。今の卒業式を間近に見て、卒業予餞式に出席しなかったことを改めて残念に思っています。

さて、本校の卒業から42年たち、私はこの春、38年間の県教育委員会職員としての勤務を終えることになりました。本校で二度目の「卒業」を迎えることになりました。

最後の勤務地が母校というのは、学校で勤務する以上、当然有り得ることですが、本校ではあまり聞かないように思います。

着任早々生徒の皆さんと一緒に校歌を歌ったとき、鶴丸に帰ってきたという実感が湧きました。歌詞も意外と覚えていました。生

徒の頃は意味もあまり意識せずに歌っていましたが、この校歌が誕生した背景を聞き、その背景に思いを馳せながら改めて歌詞を読み返してみると、この校歌が持つ世界の大きさが見えてきて、更に愛着を感じました。

県職員としての最後は学校での勤務でしたが、県庁舎に置かれている県教育委員会の事務局での勤務が長く、学校職員というより県庁職員に近い、そういう勤務歴でした。

学校の予算や施設・設備を所管する部署、先生方の人事異動に関わる部署、県立図書館などの社会教育施設、文化財に関わる部署を始め、教育委員会から離れて県全体の防災に関わる部署も経験しました。

県職員としての勤務を終えるに当たり、この間に私を感じた、これからの社会を生きる上で大切にしてほしいと思うことをいくつか紹介します。

一つ目は、組織はそれぞれが与えられた役割を果たすことで回っているということ。組織をマネジメントする立場になると、特にそのことがよくわかります。誰かが十分な役割を果たさずにそこが欠落してしまうと組織はダメージを受けます。仮に、自分が役割を果たさなくてもうまく回っているように見えることがあるとすれば、それは誰かがどこかで肩代わりしてくれているということ。無意識のうち誰かに自分の責任を負わせているということになります。

一方で、いろいろな要因で役割が果たせない、そういうときもあるかと思えます。そんなときはそのことをきちんと伝えることも必要です。抱え込まずに助けを求める

ことは、組織が都合な事態を回避する上でとても大切なことで、決して迷惑なことではありません。

二つ目は、物事がうまくいかない責任を他人にばかり向けていても解決にはつながらないということです。まわりが思うような対応をしてくれないのは、まわりが悪いのではなく、納得できる説明や訴えができていない、あるいは、受け入れようと思っていない、あるいは、ある程度とれていない自分にも責任があります。

自分に反省すべき点はないかということを見つめもせずに、まわりにばかり原因を求めていては、いつまでもその壁を越えることはできないと私は思います。

三つ目は、好奇心を大事にしたいということ。これまで関わった上司、同僚の中には、年を重ねても子供のような好奇心を持った方がたくさんいました。純粋な気持ちで様々な事柄に興味を抱き、真理を追究しようという心を持ち続けることが、知識や経験、知性、人格の幅となり、新しいものを見いだし、生み出すものになると思っています。好奇心が持つ熱量が新しい世の中を創る原動力になると思っています。

以上、38年間の経験にしては取るに足りない内容で、本校の生徒の皆さんならとくに気付いていることばかりかも知れませんが、何かにつまずいたときや、逆に物事が順調に進んで気持ちが緩みそうなときに思い起こしてもらえたら幸いです。

結びに、卒業生の皆さん、在校生の皆さん、そして、これから本校の生徒になる皆さんを始め、これまで本校と縁を紡いでこられた全ての皆様の今後の御活躍と御多幸を祈念いたします。

公務員生活の最後に母校で奉職できて幸せでした。

同じ時間を過ごしてくださった皆さんに心から感謝を申し上げます。

悠久の流れの中で

英語科 上村 英治

鶴丸高校が薬師二丁目の校舎に移転したのは、昭和39年(1964年)の春である。私もこの年に現在の鹿児島中央高校の校舎(旧一高女校舎)を卒業した。

あれから60年余りの歳月が流れたが、鶴丸高校はすばらしい発展を遂げていると思う。まず、私が気づいたのは、生徒諸君の挨拶がとても良くなったということである。

また、いろいろな行事や集会のとき、先生方の話を聴く姿勢ができてきている。自分の考えをしっかり持っているだけでなく、他者の話に耳を傾けるということは、人としての基本であると考えられる。鶴丸の『醇乎たる学風』に加えて、『挨拶』と『聴く姿勢』を良き校風として、育んでいってほしい。

ところで、皆さんは、本校の百周年記念庭園の一角に古い梅の木と並んで建っている石碑のことを知っているだろうか。これは、第三代校長の池江(いけえ)平(たいら)先生の遺徳を偲んで建てられたものである。この碑には、先生が敬愛されていた西郷隆盛の遺訓から採った、

雪に耐えて梅花麗(うるわ)しく
霜を経て楓葉丹(あか)し
如(も)し能く天意を識(し)らば
豈(あに)敢えて自ら安きを謀(はか)らんや
という漢詩が刻まれている。これは、西郷隆盛が、アメリカに留学する甥に送った激励の

手紙の一部だという。つまり、この漢詩は未来に雄飛する若者へのメッセージなのである。

池江先生は、当時の高校生急増期に生じた本校の移転問題の渦中であって、多大な努力をされた。鶴丸高校は薬師にあった旧一中校舎跡に移転し、これを機に、新たな歩みを踏み出すことになったのである。

「鶴丸は勉強するところである」。これは、昭和25年、当時の生徒会長が、鶴丸生の目指すべき姿を端的に示した言葉である。それから70年余りの時を経た今、改めて鶴丸生の「勉強」の質を問うべき時であると思う。生徒諸君には、物質的に豊かな社会にあっても、大いなる精神的飢餓感をもって過ごしてほしいと思う。

若いときは、自分の姿を客観的に見ることはなかなか難しいものである。今は楽しみに満ちた高校生活というより、悩み苦しみの日々の方が多いかもかもしれない。が、それが青年の青年たるゆえんであり、困難に挑戦するのが若者なのである。

また、若者は変容を遂げる存在である。現在の姿で将来を測ることはできない。長いスパンで自分のことを考える心のゆとりを持つことも大切である。

皆さんの鶴丸高校での「かへらざる三年」が、いつの日か、メダルの浮彫のように輝くことを願っている。

令和7年度
教職員定期人事異動発表

令和7年度の鹿児島県立鶴丸高等学校教職員定期人事異動が発表されました。先生方、長い間本当にお世話になりました。新天地での御活躍を祈念しております。

氏名	教科等	転出先等
小島 健志	教頭	高校教員課 主任指導主事兼係長
南 芳浩	事務長	退職
小吉 祥子	国語	伊集院高校
蓮香 尚矢	地歴公民	垂水高校 教頭
柿内 康志	地歴公民	川内高校
堂園 尚文	数学	川内高校
大宮 一也	理科	種子島高校
福田 健吾	体育	伊集院高校
有馬三智恵	英語	加世田高校
西島 真悟	英語	与論高校
春日井 優	英語	退職